

中央教育審議会生涯学習分科会 第6回社会教育人材部会 (2023/11/13)

青年教育事業 青少年教育講座 若者による自主講座
「お芝居『さちどんどん』を観て「老後」を考えよう！
～助けてと言えたときが、助かったとき～」にみる共生社会

ウェルビーイング実現にむけて
社会教育士の役割
(社会教育士×社会福祉士)

NPO法人市民の図書館・公民館こがねい 副理事長
公民館貫井北分館 副分館長
伊藤智代子

基本情報 1.「NPO法人市民の図書館・公民館こがねい」について

小金井市は、行財政改革を推進するために「良質で安定的かつ低予算な運営」*を可能とするために、2013年に市が支援し、NPO法人市民の図書館・公民館を設立。

- ▶ 2014年4月 小金井市貫井北センター運営業務委託
- ▶ 2015年9月 小金井市東センター運営業務委託
- ▶ 専門性を持った職員を配置。
 - 公民館貫井北分館 社会教育士2人（分館長、副分館長）ほか
 - 公民館東分館 社会教育士2人（分館長、副分館長）ほか
 - 公民館緑分館 社会教育士および社会教育主事有資格者ほか（予定）
 - 図書館職員は、全員 司書資格あり

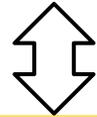
* 出所：「市民協働で夢をのせた公民館 小金井市貫井北センター」『月刊公民館』2014.12 p.10-15

基本情報 2. 公民館貫井北分館の基本的な方針について

基本理念・施策

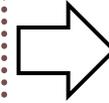
第4次小金井市生涯学習推進計画

学びでつながる笑顔のまち小金井
～さあ、動き出そう！人生100年時代～

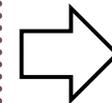


小金井市公民館中長期計画

(学びの成果を地域づくりの実践につなげる
地域課題学習)



社会教育を通して
豊かな人間関係や
潤いのある地域社会形成



公民館の将来像
「つどい、学び、つながる、
地域の拠点（ひろば）」

基本情報 3. 公民館貫井北分館の運営業務について

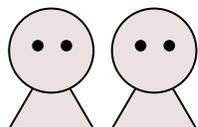
地域
住民



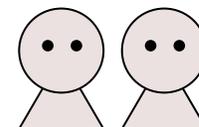
地域の学びと実践のプラットフォーム
公民館

市民活動

福祉・医療/スポーツ/文化/
まちづくり・地域活性化/
子育て・教育/環境/
国際活動/その他



社会教育士、社会教育主事資格保持者など



<生涯学習>
「個人」の生涯にわたる
自己実現を図る学習

<社会教育>
学びを通じた「人づくり・
つながりづくり・地域づくり」

活動支援、連携・学習環境形成のコーディネート

他機関



1-1. 若者による自主講座「お芝居『さちどんだん』を観て「老後」を考えよう！ ～助けてと言えたときが、助かったとき～」の成り立ち →きっかけは社会福祉の分野から

小金井きた
地域包括支援センター
生活支援コーディネーター
Mさん
(小金井社会福祉士会)

いつまでも元気にくらす生活
支援・介護予防のための
地域包括ケアシステム
を考える会議に公民館からも
参加はできないか？



「高齢者になるとおこりうること」
啓発パンフレットづくり検討会参加

- テーマは、お金の管理。
- いつまでも安心して暮らしていくために今やっておくことをグループに分かれて話し合い、それぞれの立場で出来る取組について一緒に検討。
- 参加者は、地域住民、金融機関、社会福祉協議会、生活支援事業協議体委員、プロボノチームなど30人が参加。



- ・ 他機関との連携
- ・ 地域住民の参画による地域コミュニティ基盤の創出
- ・ 多様な世代の交流を深める活動の推進

小金井市介護福祉課
包括支援係
Kさん

- 64歳以下の世代に、高齢者の生活を知って欲しい
- 地域づくりの将来像を共有し、楽しみや共感から始まる、**支え合いのまちづくり**を

高齢期のお金の管理について
お芝居『さちどんだん』(創作劇)
を若者による自主講座
としてコーディネート

1-2. 若者による自主講座「お芝居『さちどんどん』を観て「老後」を考えよう！～助けてと言えたときが、助かったとき～」の成り立ち →地域の教育機関へ

社会教育実習生、施設見学など生涯学習分野、社会福祉分野、他分野の先生方へ
学生紹介依頼
結果は...
東京学芸大学
教育協働研究プログラム
表現教育領域
大学院生がまず参加

齋木柊志（しんじ）さん参加
昼の連続しないドラマ
『さちどんどん』のシナリオ
を読んで興味をもった。
小金井地域ドラマ集団
「花のように」立ち上げ

脚本と演出、
チームリーダー。
言いたいことが言い合
えるチームに！



小泉玲雄（れお）さん参加
授業で一緒の齋木君に
誘われて参加。
高校時代に演劇部。
教育と意外なコラボを探索中！
今回は、色んな世代と
ワクワクを楽しみたい。

4年間の保育士として
社会人経験後、大学院
に入学。



- ・地域の多様な世代や機関をつなげることで、地域の協働・連携の促進
- ・地域住民の学習ニーズを踏まえた事業の企画・実施
→「教育つぽくない」*、「やらなきゃ」ではなく「やりたい」人材につなげる

* 青山鉄兵「「体験活動」と「居場所」のあいだ～青少年教育と子ども・若者支援策のつながりと隔たり～」『社会教育』2023年10月号を参照

1-3. 若者による自主講座「お芝居『さちどんどん』を観て「老後」を考えよう！～助け てと言えたときが、助かったとき～」の成り立ち →公民館の利用者や関係者へ



講座参加者

青年教育事業 青少年教育講座
健全育成事業「アニメdeトーク
『異世界アニメ』へダイブ！」

高橋摩耶（まや）さん参加

大学2年生。シナリオを読んで、高校時代に演劇部のことや、祖父母のことが浮かびやってみてみたいと思いました。

多様な世代
の交流を深
める活動の
推進

きたまちYAサポーター

図書館貫井北分室・公民館貫井北分館
連携事業

桑森あき子（くわもり）さん参加

25歳。都内私立中学の図書館勤務。
台本を読んで、ぜひ参加してみたい
と思いました。演劇ははじめて。



他機関との
連携

公民館貫井北分館 企画実行委員

尾上エミ子（グランマ）さん参加

80歳代前半。都の職員でした。読み聞かせをライフワークで実施。シナリオを読んで若い人と一緒にやってみたいと思いました。今回参加することで、LINEもZOOMもできるようになりました！

生活支援員

小金井みなみ地域包括支援センター

吉田栄治（A3）さん参加

50歳代。原作の『さちどんどん』制作者。20歳代のころ演劇の演出をしてました。高齢者やその家族の状況など、伝えながら、世代を超えてつながりたいです。



2-1. 小金井地域ドラマ集団「花のように」活動の様子

1. 介護福祉課 Kさん、斎木さんと、目的や今後の進め方について打合せ
2. LINEでグループをつくり情報を共有
3. タイトルと目的検討（ZOOMで顔合わせ）

原作『さちどんどん』の製作者 吉田さんから、地域包括支援センターの職員として、高齢者や家族が向き合っている課題について教えてもらい、メンバー全員で検討。「お芝居『さちどんどん』をみて「老後」を考えよう！～助けてと言えた時が、助かった時～」に決定。進行は、斎木さん。

4. チラシ掲載用内容決定（LINEグループで確認）

《リード》 高齢者以外の世代にも分かりやすいように

《チラシイラスト》 タイトルや説明文と背景絵が一体化するような構図で



リアルとオンラインの双方で、住民が相互に「つながり」を持てる
共同学習・交流の推進（デジタルデバイド解消）

2-2. 小金井地域ドラマ集団「花のように」活動の様子

「お互いさまのまちづくり」の世代と立場による違い

小金井みなみ地域包括支援センター
生活支援員（社会福祉士）
吉田さん原作

【タイトル】

昼の連続しないドラマ『さちどんどん』

～先はワクワクしたいよね～

【テーマ】

高齢者の困りごと、特に金銭管理に関して。高齢者とその子ども達に突然訪れた「ピンチ」を「備え」に変えるホームドラマ。機会をみつけて、その都度、身近な人と話し合い、備えをする。

東京学芸大学教育学研究科
教育支援協働実践開発専攻
斎木さんの新作

【タイトル】

お芝居『さちどんどん』を観て考えよう

～助けてと言えたときが、助かったとき～

【テーマ】

様々世代が考える老後 = 未来。偽らない、ありのままを許し合い、認めあう、違いのある他人を「自分ごと化」する。



- ・ 地域住民の参画による地域コミュニティ基盤の創出
- ・ 多様な世代の交流を深める活動の推進(アサーティブな関係性支援)

2-3. 小金井地域ドラマ集団「花のように」活動の様子



第1回目の顔合わせ練習
自己紹介と呼び名を決めて、いよいよ開始！
インプロ（言葉なしで即興劇）でワーク。
「コミュニケーションは言葉だけではなく、
間も大事！」を体感



第2回目の練習
シナリオを読み合わせをしながら、動きをつける。
80歳代から20歳代の様々な年代・立場のメンバー
それぞれの意見を反映させながら、創り上げていく。



- ・ 地域住民の参画による地域コミュニティ基盤の創出
- ・ 多様な世代の交流を深める活動の推進(アサーティブな関係性支援)

2-4. 小金井地域ドラマ集団「花のように」活動の様子

「お芝居『さちどんどん』をみて「老後」を考えよう！ ～助けてと言えた時が、助かった時～」上演！

【テーマ】

- ・様々な世代が考える老後＝「未来」
- ・「未来」に対する不安

【上演日】

11月26日(日) 午後2時から4時

【講座の内容】

第1部：お芝居の上映

第2部：上映後、出演者と地域包括支援センター職員などがファシリテーターとなり、上演者と観覧者がグループワーク。困った時に「助けて」と言えること、「助けて」と言われたときにどうするかなどをグループで考える。



社会的包摂の実現（地域の課題解決に向けての事業の企画・実施）

助けてと言えた時が、助かったとき。

2023年11月26日(日) 日時・場所
午後2時～4時
※当日のスケジュールによって時間が前後する場合があります。
公民館 小金井北分館 北町ホール

令和5年度 公民館 小金井北分館
青少年教育事業
青少年教育講座

対象▼
小金井市在住・
在勤・在学の方
40名申込限

申込方法・問い合わせ先
電話、窓口、またはメール(1x1通)に、
住所・氏名(フリガナ)・年代、電話番号を明記し、
公民館 小金井北分館「さちどんどん係」へ

公民館 小金井北分館 〒184-0015 小金井市 實井北町 4-11-12 實井北センター 2F 階
TEL: 042-385-3401 E-mail: k020415@bz04.plala.or.jp
http://ntk-koganei.org/ https://twitter.com/cc_nukukita

二次元コードから
も申込OK

小金井地域ドラマ集団 花のように

3. 小金井地域ドラマ集団「花のように」お芝居上映後のリフレクション

若者による自主講座を企画・実施した感想などを、自分自身の視点、メンバーの視点で話し合い

- ▶ 若者による自主講座を実施して、良かったと感じたこと
- ▶ 若者による自主講座を実施して、苦勞したこと
- ▶ 若者による自主講座を企画・実施する前と後で、ご自身の中で何か変化があったか



- ・ 地域住民の話合いの場を創出
- ・ 地域住民の学び合いの中で気づきの促進

4. 社会教育士として公民館での役割・業務 ～ウェルビーイング実現に向けて～

- ◆ 地域住民の学習ニーズを踏まえた事業の企画・実施
- ◆ 地域住民の参画による地域コミュニティ基盤の創出
- ◆ 多様な世代の交流を深める活動の推進
- ◆ 他機関との連携
- ◆ リアルとオンラインの双方で、住民が相互に「つながり」を持てる共同学習・交流の推進
(デジタルデバイド解消)
- ◆ 社会的包摂の実現 (地域の課題解決に向けての事業の企画・実施)



コーディネート・活動支援・活動活性化



専門性を様々な場に活かす学びのオーガナイザー

5. 社会教育士の視点 ～ウェルビーイング実現に向けて～

- ◆ 学び合いを通じた地域づくりの拠点と捉え、講座の中だけでなく生活の中でもつながれるよう地域の関りの促進
- ◆ 地域の多様な世代や機関をつなげることで、地域の協働・連携の促進
- ◆ 地域住民の話合いの場を創出
- ◆ 地域住民の学び合いの中で気づきの促進
- ◆ 社会教育のノウハウや専門性を活用
→社会教育におけるナラティブ・アプローチ

「問題」をネットワークで背負う。「個人化された語りから、地域に開かれた語りへ」すなわち、「個人が生きる場や関係を豊かにすること、ひとりでも頑張れる能力ではなく、みんなですべて生きていく関係を作ること」

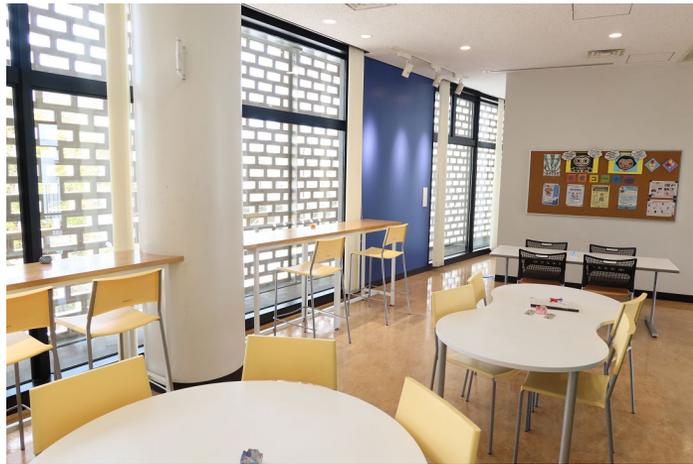
参考：野口裕二『ナラティブと共同性 自助グループ・当事者研究・オープンダイアログ』青土社 (2018) p130-132

6. 社会教育士としての今後の課題

- ◆ 社会教育士の周知（社会教育人材がハブとしての役割であること）
- ◆ 社会教育士の資格取得しやすさ（他分野からの研修機会、費用など）
- ◆ 社会教育関連のネットワークの活用
 - …専門分野におけるつながりの活用
 - 例）日本社会教育士会、生涯学習情報ネットワークなど
- ◆ 社会教育以外のネットワークの活用
 - …他分野の活用 例）日本社会福祉士会 e-ラーニング講座など
 - …他機関の活用 例）地域包括支援センター、社会福祉協議会など
- ◆ 専門性を活用する上で、コミュニケーション方法、支援方法など理論や方法などの研修制度や勉強会の実施

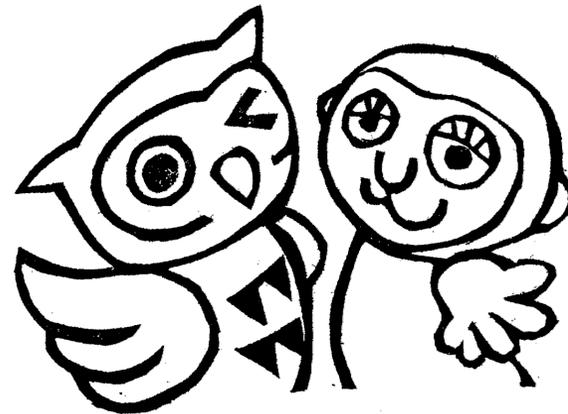


貫井北センター（愛称 きたまちセンター）
2014年4月開館



「居たい、行きたい、やってみたい」*、
「誰かといてもいいし、一人でもいい」*
フリースペース 約70席

ご清聴、ありがとう
ございました。



公民館貫井北分館
若者コーナーキャラクター
キタはかせ

図書館貫井北分室
YAコーナーキャラクター
ヤンざる



「学んだことを実践に」
きたまち保育サポーター講座
修了生が講座中の保育を担当



「学んだことを実践に」
きたまちセンターの花サポーター講座
受講生が植込みとメンテナンス

* 青山鉄兵「「体験活動」と「居場所」のあいだ～青少年教育と子ども・若者支援策のつながりと隔たり～」『社会教育』2023年10月号を参照